

カテゴリー	提言テーマ	提言テーマを実現するための方策		
		(テーマを実現するための方策は何か)	(その方策とはどういう取り組みなのか)	(誰が取り組むのか)
農業	◎地産地消・来消の推進（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・市内ワイナリー等での地産来消の推進を図る ・学校給食への継続供給、拡大 ・学校食材 100%供給 	<ul style="list-style-type: none"> →小規模農業者における特有のメリット（有機低農薬）を活かし、食材提供ネットワークをつくって学校給食へ専門に食材を提供していく仕組みをつくる。 →獣害を解決し、さらに地産地消を進めるため、鹿肉を市内で販売できるようにする。 →鹿肉と地場野菜のレシピをつくり、内外に発信する。 →玄関口のICへ大々的な農畜産物ショップなどを設置して、誘客と情報発信を進める。 	
	◎東御ブランドの確立と第6次産業化の推進（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の充実を図る ・東部湯の丸ICへの大規模直売施設を設置する。 ・ワイン特区を活用したワイン産業のブランド確立を検討する ・大田区への農畜産物の供給を検討する ・奨励作物による産地化を進める ・東御ブランドとしてPR用キャラクター及びシール作成を検討する。 ・ブランドらしく農畜産物の規格等を明示する。 ・<u>日本一のくるみの里づくり</u> 	<ul style="list-style-type: none"> →くるみ牧場（観光農場）とくるみレストランを設け、特産品振興と観光誘客を進める。 	
	◎優良農地の確保と規模拡大に向けた農地流動化の促進（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・農地円滑化団体（JA）による大規模農家への農地の集積促進を図る。 ・大規模農家等の資材等に対する補助制度を拡充する。 ・未整備農道、水路の改良を進める。 ・市単独の土地改良事業補助金を活用し、土地の利便性の向上（地域住民の協力が不可欠）を図る。 ・基盤整備を推進する ・農地バンク制度による貸付・売却可能な農地の登録、あっせんを進める。 		
	◎耕作放棄地の解消と再生（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地の小規模耕作地の営農助成制度をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> →農村環境の保全に貢献している観点から、条件の悪い山際の耕作地に作付している農家へは助成金を交付する。 	

カテゴリー	提言テーマ	提言テーマを実現するための方策		
		(テーマを実現するための方策は何か)	(その方策とはどういう取り組みなのか)	(誰が取り組むのか)
農業	<p>◎担い手農業者の育成・支援と安定経営の確立(仮称)</p> <p>◎自給自足農業を推進しよう (※市民生活・環境専門委員会から提案) →デカップリングとは、もともと「切り離す」という意味をもった言葉で、ここでは農業生産との関係を切り離れた農業政策のことを言っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人、農地プランの推進によって地域での借り手と貸し手の話し合いの場を確保する。 ・農地パトロールや農地相談会を拡充する。 ・農地保有合理化法人を設立する。 ・本年度から実施している復旧経費補助事業(補助率 50%) の活用によって荒廃農地の復旧促進を進める。 ・新規就農者グループの活躍の場を研究し確立する。 ・果樹園地について長期間の利用権を設定する。 ・集落営農組織の立ち上げを支援する。 ・JAによる農業技術や農業機械の講習会を開催する。 ・農業の担い手の確保、育成、定着の促進を進める。 ・<u>中山間地の小規模農地の市民家庭菜園化を進める。(「東御市型」デカップリング)</u> 	<p>→農地を保有し、担い手農家等へ貸出をする。</p> <p>→<u>小規模農家が離農或いは高齢化によって放出した農地を集約して、一般の市民へ家庭菜園の場所として提供する仕組みをつくる。(市民力を結集した農村環境保全対策とする。)</u></p>	
商工業	<p>◎地場産業の経営体質強化による雇用の創出と労働環境の充実(仮称)</p> <p>◎新産業としてのソーシャル、コミュニティ・ビジネスの創出と育成(仮称)</p> <p>◎コミュニティ・マーケット化の推進による商店街の活性化(仮称)</p> <p>◎産業・観光の連携による交流人口の創出(仮称)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値農業と6次産業化を推進する。 ・木材活用のPR及び市場開拓、供給コストダウンのための研究を進める。 ・商店街活性化委員会(仮称)を設置する。 ・<u>田中商店街に「まちなか広場」(仮称)を設置する。</u> ・ワイン産業のブランド化とワインと農畜産物の大都市圏における消費場所を確保する。 	<p>→加工・販売等を独自に手掛けることにより、年間を通じての農産物の活用、作業や販売で雇用を確保する</p> <p>→商店街を活性化させるため、商店街関係者だけの検討会議にせず、一般市民も参加して検討できる会議を設ける。</p> <p>→<u>市民の憩いの場として、誰もが気軽に立ち寄れる市民相互の交流スペース(施設)を設ける。(フリーマーケット、市役所出張所の機能も付加する)</u></p>	

カテゴリー	提言テーマ	提言テーマを実現するための方策		
		(テーマを実現するための方策は何か)	(その方策とはどういう取り組みなのか)	(誰が取り組むのか)
企業立地	◎企業立地を誘う情報発信の展開 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・新生活産業の誘致を進める ・自然環境を活かして保養施設を誘致する 	<ul style="list-style-type: none"> → 都会では特別養護老人ホーム等を建設できなくなっているため、豊かな自然環境という地の利を活かして、福祉産業を誘致する。これによって雇用も創出する。 → 明神館周辺などは健康保養地に適した景観、自然、温泉があるため、健康保養地として健康産業を誘致していく。これによって、有機野菜の販売、誘客、雇用の確保する。 	
観光	◎観光拠点の整備と“おもてなし”の実現 (仮称) ◎観光資源の活用と情報発信力の強化 (仮称) ◎生活と観光の拠点となる玄関口の整備 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物、農産加工品販売を含めた観光開発 ・アグリビレッジ周辺の農業体験や観光農園の研究開発 ・観光のユニバーサル化を進める ・ワイン特区と観光を結び付ける情報を発信する。 ・道の駅への観光情報発信基地をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> → 施設整備のユニバーサル化はもとより、“おもてなし”といったソフト面の充実化を図るため、独自に観光ガイドボランティア (仮称) の養成を進め、登録できる仕組みを作ったかどうか。 → 湯の丸高原ガイドの養成、インタープリターの養成 → 大田区へアンテナショップを設置し、市の特産品、農畜産物の販売のほか、グリーンツーリズムなどの観光情報発信も進める。 	
自然環境	◎地域資源のブランド化によるエコ・グリーンツーリズムの推進 (仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸の自然や温泉の活用 (鹿沢温泉との連携)、農業体験と組み合わせる地域の活性化を図る。 ・東部・湯の丸IC付近への宿泊施設の誘致 ・松の木を松くい虫被害から防除するため、松の保存エリアを限定した管理の実施 ・農にふれる体験グリーンツーリズムを実現する 	<ul style="list-style-type: none"> → 東御市の自然、里山、農業にふれる体験ツアーを企画して実践する。 	